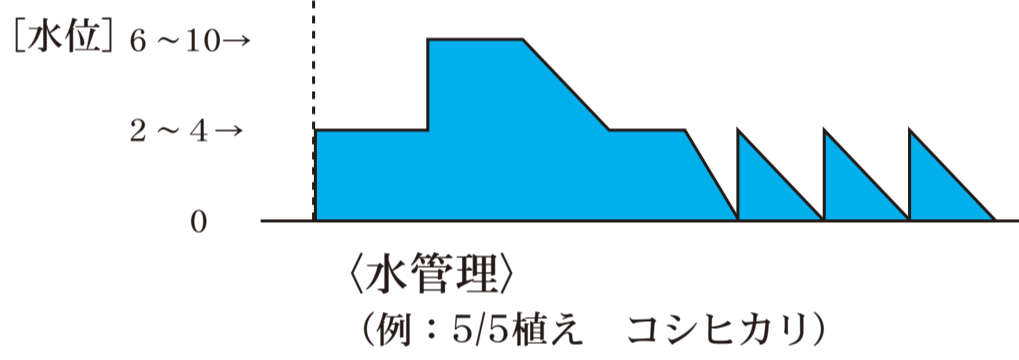


(※米作りは第一に水加減、第二に肥料のやり方が大切だという意味)

～基本技術の励行により天候に負けない稲作作りを目指そう!～

品種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	特性と栽培上の注意
みずかがみ (環境こだわり申請が必要)	5/2 田代かき 5/5 田植え	5/2 田代かき 5/5 田植え	溝切 (中干し) 中干し開始を書き出します	7/21 出穂期 7/27 出穂期	8/22 収穫期 約32日			・高温による乳白米が少ない ・倒伏はしにくい
コシヒカリ	5/2 田代かき 5/5 田植え	5/2 田代かき 5/5 田植え	6/5～10 追肥 溝切 (中干し) 中干し開始を書き出します	7/9 穂肥 I 7/16～19 穂肥 II 7/27 出穂期	8/28 収穫期 約32日			・倒伏しやすい ・いもち病に弱い ・穂発芽はしにくい ・食味は良好
キヌヒカリ	5/2 田代かき 5/5 田植え	5/2 田代かき 5/5 田植え	6/5～10 追肥 溝切 (中干し) 中干し開始を書き出します	7/3 穂肥 I 7/10～13 穂肥 II 7/28 出穂期	8/29 収穫期 約32日			・分げつの発生が少ない ・倒伏はしにくい ・いもち病、白葉枯病に弱い ・穂発芽しやすい ・乳白、腹白がやすい
日本晴	5/2 田代かき 5/5 田植え	5/2 田代かき 5/5 田植え	6/20～25 追肥 溝切 (中干し) 中干し開始を書き出します	7/12～14 穂肥 I 幼穂形成期 7/23～25 穂肥 II	8/6 出穂期 8/12 出穂期	9/10 収穫期 約35日		・倒伏には比較的強い ・ごま葉枯病に弱い ・多肥・密植すると登熟が劣る
秋の詩	5/2 田代かき 5/5 田植え	5/2 田代かき 5/5 田植え	6/20～25 追肥 溝切 (中干し) 中干し開始を書き出します	7/16～18 穂肥 I 幼穂形成期 7/23～25 穂肥 II	8/8 出穂期 8/12 出穂期	9/12 収穫期 約35日		・倒伏はやや弱い ・いもち病に弱い ・穂発芽はしにくい ・大粒で日本晴よりも食味は良い
滋賀羽二重糯	5/2 田代かき 5/5 田植え	5/2 田代かき 5/5 田植え	6/20～25 追肥 溝切 (中干し) 中干し開始を書き出します	7/25 穂肥 I 幼穂形成期 8/1 穂肥 II	8/12 出穂期 8/18 出穂期	9/23 収穫期 約42日		・倒伏しやすい ・いもち病に弱い ・穂発芽は特にしやすい

疎植(坪当たり50～60株)と細植え(二株当たり3本)の励行!!



●一つの田んぼを見渡して、4～5割ほど穂が出た時が『出穂期』です。(県稲作指導指針に準ずる)

○肥料・農薬は JAマークの付いた資材をお勧めします!  
 ※品質向上のため、生育に応じた施肥や肥効調節型肥料の利用により、茎数の過剰分げつを抑え、適正な穂数の確保に努めましょう。  
 ※胴割れしやすい品種(秋の詩、滋賀羽二重糯)については、早期落水は絶対しない!!

## 水稲施肥設計

品種	肥料名 (kg/10a)							
	一般高度化成444 (14-14-14)				肥料名			
	基肥	追肥	穂肥 I	穂肥 II	楽しよう君 (20-10-12)	楽しよう君 (20-10-12)	楽すけ (13-5-5)	有機入りセコート (13-5-5)
みずかがみ								
コシヒカリ	15	15	15	15	35		60	
キヌヒカリ	20	10	20	20	40		60	
日本晴	20	20	30			40		60
秋の詩	15	10	20	15		40		60
滋賀羽二重糯	15	10	15	15		35		60

※大豆跡、野菜跡は場では基肥は無肥料～半量以下に調節する。(新豆あと一発を除く)  
 ※全品種、ケイ酸加里を基肥又は追肥時に施用(40kg/10a)することで、倒伏軽減効果があると共に、稲の受光体勢が良くなり登熟歩合が高くなります。  
 ※楽しよう君を全面全層施肥する場合は+5 kgを追加して下さい。

水田雑草除草剤

◎一発処理除草剤・初期除草剤

除草剤名	使用時期	使用量 (10a当り)	使用上の注意
アツバレ1キロ粒剤	移植時～ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)	1kg	・移植時と記載されているものは、田植え同時散布機で使用します ・代掻きは丁寧に田面を均平にする ・散布時はやや深めに湛水し田面が露出しない状態で散布する ・散布後7日は湛水状態を保ちかけ流しをしない ・アオミドロ等の多発田では十分な除草効果を発揮しませんので注意する
アツバレフロアブル	移植後3日～ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)	500ml	
アツバレジャンボ	移植後3日～ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)	400g	
エーワン1キロ粒剤	移植後5日～ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)	1kg	
エーワンフロアブル	移植後5日～ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)	500ml	
エーワンジャンボ	移植後5日～ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)	300g	
ミスターホームラン1キロ粒剤	移植時～ノビエ2.5葉期まで(移植後30日まで)	1kg	
ピラクロフロアブル	移植時～ノビエ1.5葉期まで(移植後30日まで)	500ml	
パデホープ1キロ粒剤	移植直後～ノビエ1葉期まで(移植後30日まで)	1kg	
ピラクロンジャンボ	移植直後～ノビエ1.5葉期まで(移植後30日まで)	300g	

◎中後期除草剤

対象除草	除草剤名	使用時期	使用量 (10a当り)	使用上の注意
ノビエ	クリンチャー1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期まで(収穫30日前まで)	1kg	湛水 散布の前に水の出入りを止め湛水のままムラのないように散布し7日間は湛水状態を保つ。
	ヒエクリン豆粒 250	移植後15日～ノビエ4葉期まで(収穫45日前まで)	250g	
広葉雑草	パスグラノ粒剤	移植後15日～55日(収穫60日前まで)	3kg	落水 散布の1～2日前に落水し散布する。散布後3日間は水を入れない。
ノビエ 広葉雑草	サンパンチ1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ3.5葉期まで(収穫60日前まで)	1kg	湛水 散布の前に水の出入りを止め湛水のままムラのないように散布し7日間は湛水状態を保つ。
	ザーベックス SM 粒剤	移植後20日～ノビエ2.5葉期まで(収穫30日前まで)	3kg	
	アトトリ1キロ粒剤	移植後20日～ノビエ4葉期まで(収穫45日前まで)	1kg	
	アトトリ豆つぶ 250	移植後20日～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)	250g	
	ワイドパワー粒剤	移植後20日～ノビエ5葉期まで(収穫60日前まで)	3kg	
クリンチャーバス ME 液剤	移植後15日～ノビエ5葉期まで(収穫50日前まで)	1ℓ	落水 落水後散布。散布後3日間は水を入れない。雑草の莖葉によく付着するよう散布する。	

- 基肥一回肥料に係る使用上の注意
- ①全面全層施用する場合には、**土壌と混和してから**入水し、代かきをするようにしてください。
  - ②側条施肥については、田植え前に必ず施肥量を確認し、使用中も定期的に確認して下さい。
  - ③生育期間の気温が高温で推移すると、後半に肥切れし穂肥が必要な場合があります。
  - ④過激な衝撃や摩擦によって、被覆肥料の被膜が一部損傷し、溶出が早まる場合があります。
  - ⑤肥料成分溶出後、光や微生物などの影響を受け、徐々に崩壊、分解していきます。田面水上に殻が浮上することがありますが、ほ場の外へ流出させないようにしてください。



## 栗東米品質向上のポイント

- ★土づくり資材の投入で強い稲を作ろう
  - ・粒状とれ太郎 80kg/10a (土づくり資材の投入はカドミウム吸収抑制対策にもつながります)
  - ・深耕 根の伸長を広げるとともに、土に保肥力を向上させ、根の働きを高める (15cm以上)
- ★適正な施肥管理
  - ・過繁茂にならないように基肥、追肥は適正に施用しましょう
  - ・穂肥は幼穂を確認してから施用しましょう
  - ・実肥は食味を下げるので施用しない
- ★水管理の徹底
  - ・適期中干し(茎数17～18本)により分げつを抑制しましょう
- ★いもち病対策
  - いもち病は、発生初期の早期防除が重要となるため、育苗箱処理剤または、本田施用剤(粒剤)で事前に防除しましょう!

農薬名	適用病害虫名	使用量	使用回数	使用方法
デジタルコラトップ アクタラ箱粒剤	いもち病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネクワカメムシ、ニカメイチュウ	1箱当り50g	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する
フェルテラ箱粒剤	いもち病	1箱当り50g	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する
コラトップ粒剤 5		3～4kg/10a	2回以内	散布

- ★カメムシ防除
  - ・出穂期に合わせた効果的な薬剤防除を行いましょう
  - ・出穂前後6週間は本田にカメムシ類を寄せ付けないように
    - ①出穂2～3週間前と出穂期の2回の草刈り
    - ②水田内や畦畔にイネ科雑草の穂を出させない
    - ③地域で話し合い一斉に行う
 3つのポイントを重点的に行いましょう
- ★適期収穫
  - 刈り遅れは胴割米などの品質低下につながるため適期に収穫しましょう(穂の元に帯緑粒が10～15%残っているとき)

★GAPの実践

農業生産・流通場面において、より一層安全・安心を確保するための具体的な取り組みとしてGAP (Good [良] Agricultural [農業の] Practice [実践]) を行うことが求められています。

GAPとは、農産物生産の準備から出荷に至る全ての作業内容を見つめ直しリスク(危害や事故が起きる恐れ)があれば、それを回避するための対策(改善)を立てて実践することです。



稲作ごよみに記載する農薬使用時の注意事項

- ①この資料に記載された農薬は、平成30年11月30日時点での登録内容です。農薬の使用にあたっては必ず、手持ちの農薬の容器のラベルを確認してください。
- ②農薬の使用に関して不明な場合、農薬メーカーや指導機関へ問い合わせ、確認してください。
- ③農薬取締法が改正され、無登録農薬や使用禁止農薬を使用した場合は違反になります。また、農薬の使用方法を誤って使った場合も違反になることがあります。